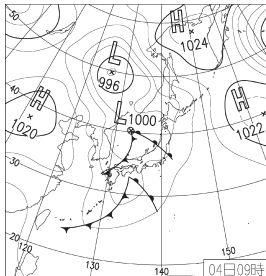


日々の天気図

— No. 160

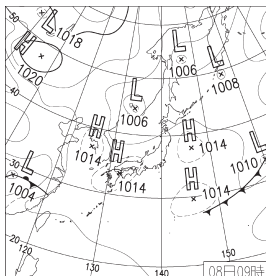
2015年5月

- ・東～北日本中心に記録的多雨と高温。55地点で月平均気温5月極値。
- ・台風第6号、第7号と相次ぎ発生。5月時点の7個発生は2位の多さ。
- ・29日、口永良部島で爆発的噴火。全島民が屋久島へ避難。
- ・30日、小笠原西方沖深さ682kmで巨大地震M8.1。全都道府県で有感。(気象庁予報部予報課)



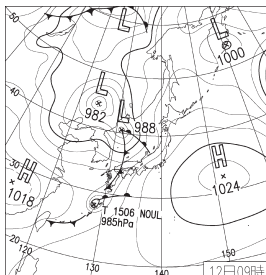
4日(月)全国的に曇りや雨

日本の北と南を通った前線や低気圧の影響により各地で雨。東～北日本では南から暖かい空気流れ込み、北日本では最高気温の平年差が+10°C以上の所も。台風第6号発生。



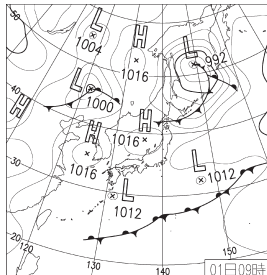
8日(金)今季最後のサクラ満開

北海道を除き高気圧に覆われて晴れ。岐阜県多治見で29.3°Cなど最高気温は全国的にやや高い。釧路市でエゾヤマザクラが満開となり、サクラ観測官署中では今季最後の満開。



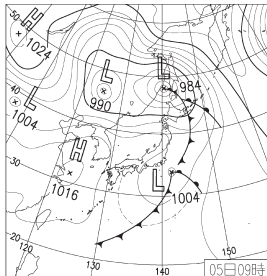
12日(火)台風が日本列島に接近

台風第6号は四国沖で温帯低気圧に。沖縄・奄美～東日本で大雨や強風。静岡県富士で59mm/1hの非常に激しい雨。沖縄県下地で観測史上1位となる最大瞬間風速58.6m/s。



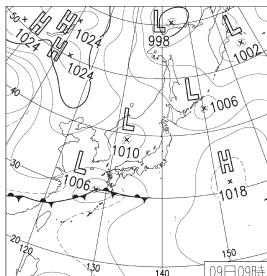
1日(金)晴れて気温上昇

広く晴れとなり、北日本を中心に最高気温の平年差+6°C以上の所多い。京都、福岡など4地点で真夏日。鹿児島県内之浦で52.0mm/1hの非常に激しい雨。室蘭市でサクラ満開。



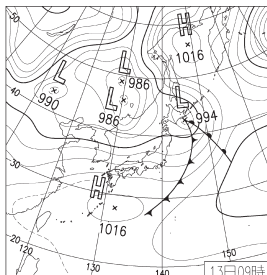
5日(火)九州・北日本で黄砂

前線や低気圧が東に抜け、黄砂次第に移動性高気圧に覆われ天気回復。北海道焼尻で最大瞬間風速30m/s。九州・東北・北海道で黄砂。ニューギニア付近でMw7.5の地震。



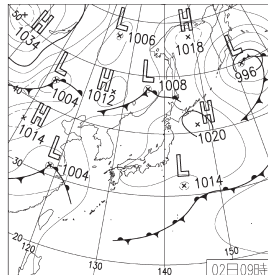
9日(土)台風第7号発生

全国的に前線や低気圧の影響により雨の降った所が多いが、午後には西日本から東北に晴れ間が広がってきた。北海道も午前中は概ね晴れた。台風第7号がマーシャル諸島で発生。



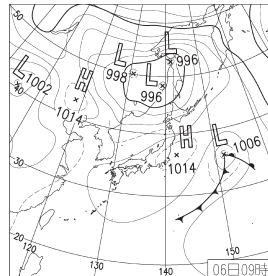
13日(水)岩手県で震度5強

西日本～東北南部は晴れた所が多く、台風が持ち込んだ暖気と日射により気温上昇。群馬県館林で30.2°Cの他、東日本の4地点で真夏日。宮城県沖で地震。岩手県花巻市で震度5強。



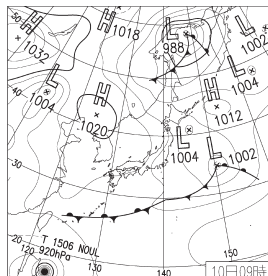
2日(土)全国的に気温高い

高気圧に覆われて晴れ。西～東日本の内陸部や東北は最高気温が多くて7月並。西日本を中心に17府県の38地点で真夏日。福岡県・大阪府・新潟県など11府県は今年初。



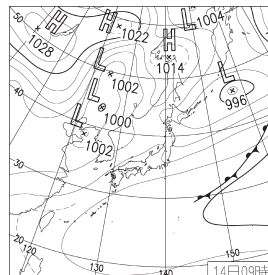
6日(水)北海道各地で黄砂

高気圧に覆われ全国的に晴れたが、九州の一部では午後から曇り。エゾヤマザクラが釧路市で開花。観測史上1位の早さ。サクラ観測官署中では今季最後の開花。稚内市は満開。



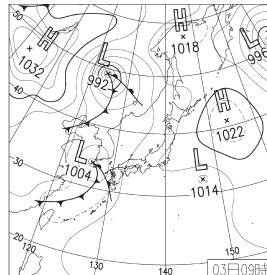
10日(日)北陸・北日本気温低め

西日本と東日本太平洋側は晴れ。北日本は上空の寒気が通過し所々で雨。沖縄・奄美は湿った気流の影響で曇りや雨。北陸や東北、北海道は最高気温4月並の所多い。



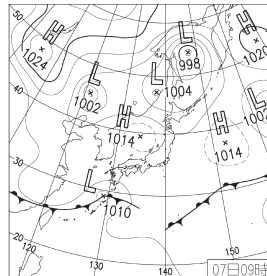
14日(木)関東など48地点で真夏日

沖縄・奄美と東日本～東北は高気圧に覆われ概ね晴れたが、西日本は暖かく湿った気流により雨。北海道もはじめて低気圧で雨。群馬県前橋で32.5°Cなど関東を中心に真夏日。



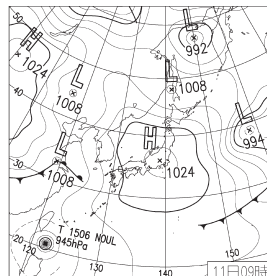
3日(日)西から雨域が東進

低気圧や前線の影響で西から雨雲広がり沖縄県宮古島51.5mm/1h。最高気温は東～北日本で7月並の所多く最低気温も全国的に高い。エゾヤマザクラ稚内市で開花。網走市は満開。



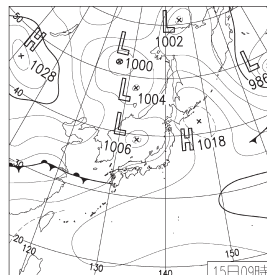
7日(木)北日本で黄砂

西日本は雨の所多く、九州南部は最高気温が上がらず3月並。晴れた北日本では気温高く太平洋岸の最高気温が7月並。青森や北海道各地で黄砂。釧路は10年ぶりの黄砂観測。



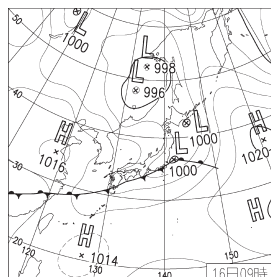
11日(月)台風第6号は沖縄近海

西日本は曇りや雨。東～北日本は晴れて北日本で気温上昇。台風第6号が沖縄近海を北東進し沖縄県川平で64.5mm/1hの非常に激しい雨。沖縄県石垣島で最大瞬間風速44.1m/s。



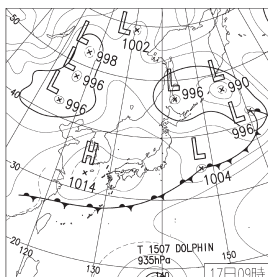
15日(金)鹿児島で大雨

西日本は前線の影響で次第に雨雲広がる。北日本は日本海の低気圧により所々雨。鹿児島県枕崎61.5mm/1hで5月1位の177.5mm/1日。最高気温、北海道4月並、東日本では7月並。



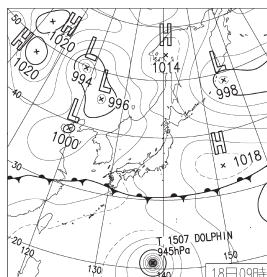
16日(土)全国的に雨

本州南岸の前線と北海道付近の低気圧により全国的に雨。最高気温は西～東日本で前日よりかなり低くなり、特に北陸では各地で10°C以上低い。京都でホテル初見。



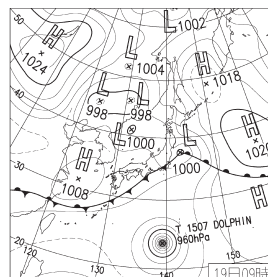
17日(日)南と北で雨

高気圧に覆われて広く晴れ。前線の影響を受けた奄美は終日雨となったが最高気温は6月並と高め。北海道は寒気を伴った低気圧の通過時に雨となり最高気温は4月並と低め。



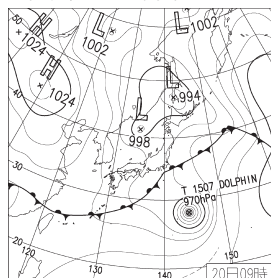
18日(月)停滞前線北上

前線が次第に北上し、前線上に低気圧が発生。雨域が西日本から東日本に広がる。最高気温は西日本で平年より低く、東～北日本で高い。熊本県阿蘇山で最大瞬間風速33.7 m/s。



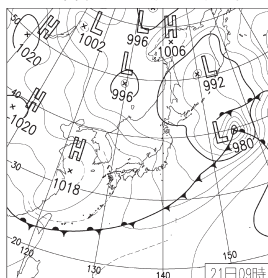
19日(火)小笠原諸島大荒れ

前線や低気圧の影響により、午前中を中心に各地で雨。台風第7号が接近した東京都父島で最大瞬間風速41.8 m/sと5月の記録を更新。奄美が平年より8日遅く梅雨入りを発表。



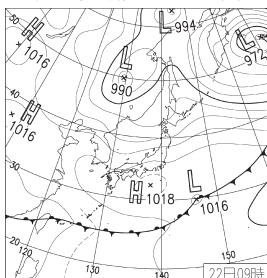
20日(水)沖縄梅雨入り発表

沖縄・奄美は前線の影響で曇りや雨。九州～東北は高気圧に覆われて晴れ。北海道は寒気の影響で一部で雨。台風第7号は小笠原付近を通過。東京都父島で最大瞬間風速36.6 m/s。



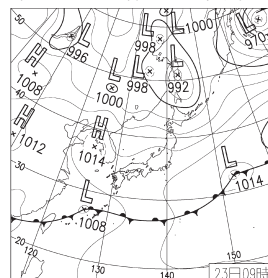
21日(木)東海～関東で雷雨

朝にかけ上空の寒気の影響で近畿～東日本で雨。東海～関東では明け方雷雨。日中は西～東日本で概ね晴れ。その他は曇りや雨。北日本で一部晴れ間も。台風第7号温帯低気圧へ。



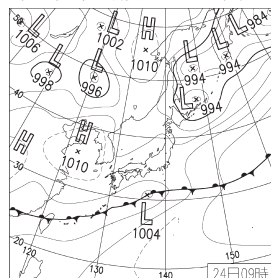
22日(金)奄美市で震度5弱

前線の影響を受けた沖縄は雨となり沖縄県城辺で41.5 mm/1hの激しい雨。上空の寒気の影響を受けた北海道付近も曇りや雨。西～東日本の広範囲で環水平アークや内曇などが出現。



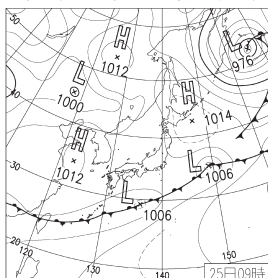
23日(土)口永良部島で震度3

口永良部島で火山性地震が相次ぐ。沖縄・奄美は雨となり沖縄県下地65.0 mm/1hは5月の1位。西日本は曇りや雨で、東～北日本は概ね晴れ。宮城県仙台で今年初の真夏日30.6°C。



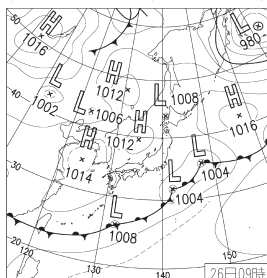
24日(日)沖縄大雨続く

沖縄・奄美は低気圧や前線の影響により雨で、沖縄県下地で59 mm/1hの非常に激しい雨。西日本から東日本の太平洋側でも所々で雨。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れ。



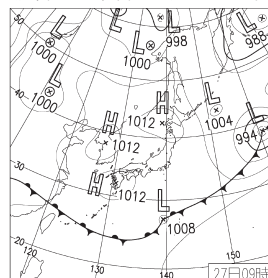
25日(月)茨城で震度5弱

梅雨前線の影響で沖縄・奄美は曇りや雨。東海～関東では曇広がる。その他の地域は晴れたが午後は気圧の谷通過で所々で雨。沖縄県北大東で175.5 mm/日。



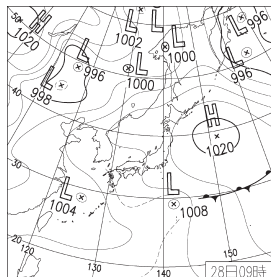
26日(火)東京で初の真夏日

梅雨前線は沖縄の南海上まで南下。高気圧に覆われ全国的に晴れて気温上昇し北海道を除く都府県で夏日となり、155地点で真夏日。東京で今年初の真夏日。



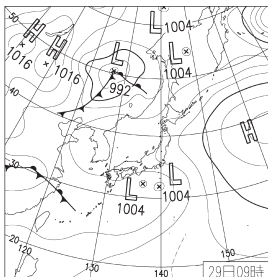
27日(水)1/4以上で真夏日

大分県日田34.6°Cなど、真夏日252地点は全観測点の1/4以上となる。西～東日本の57地点で5月の日最高気温。東京は2日連続の真夏日となり、5月の真夏日連続日数のタイ記録。



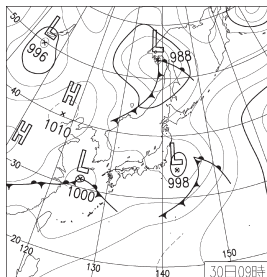
28日(木)近畿・四国などで真夏日

梅雨前線は沖縄付近に北上し、西から次第に雲広がる。暑さはやや和らぎ兵庫県豊岡市で32.5°Cなど、真夏日37地点。沖縄県豊原で62.0 mm/1hの非常に激しい雨。



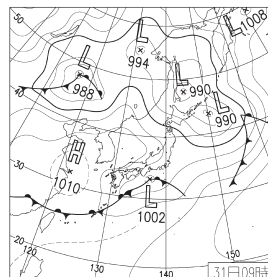
29日(金)口永良部島爆発的噴火

高気圧に覆われ全国的に晴れた所が多く、22地点で5月の最高気温1位。東日本太平洋側は低気圧の雨雲かかる。鹿児島県口永良部島の噴火警戒レベルが3(入山規制)から5(避難)に。



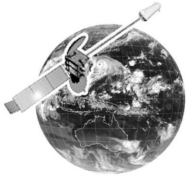
30日(土)小笠原など震度5強

西日本で雨。東日本を中心に194地点で真夏日。小笠原諸島西方沖を震源とする地震により、東京都小笠原村と神奈川県二宮町で震度5強など、全ての都道府県で有感地震。



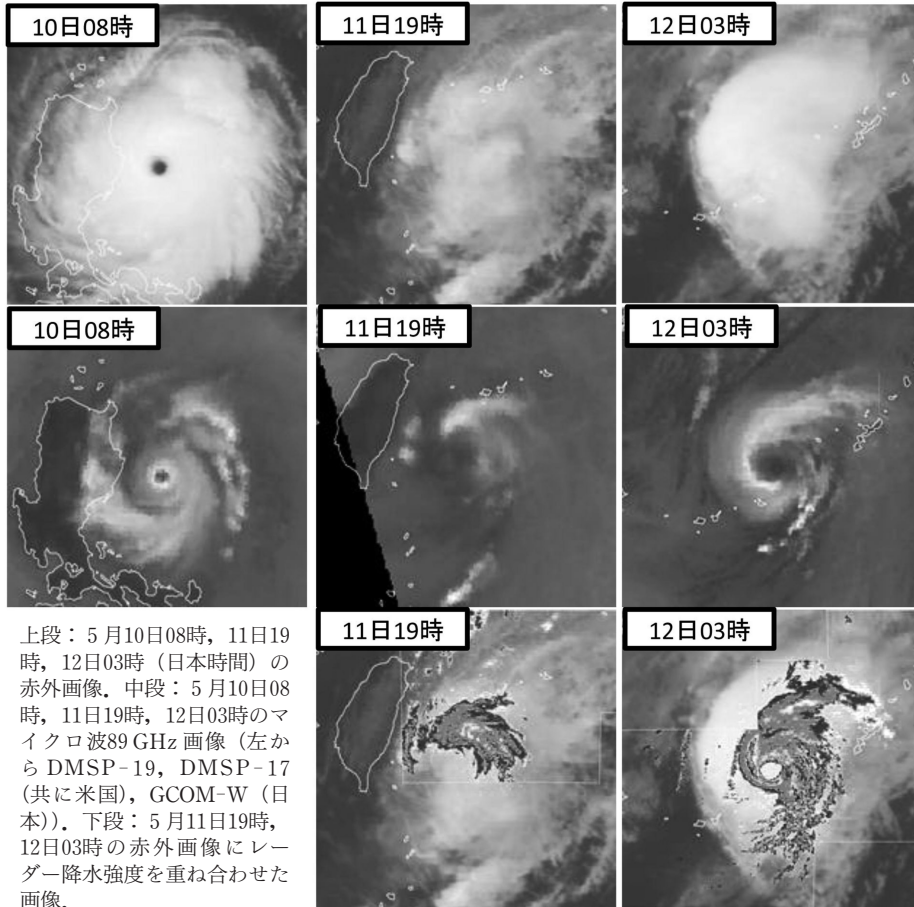
31日(日)暑かった5月

前線の影響も次第になくなり日中は晴れる所多く、東日本中心に84地点で真夏日となり東京を含め17地点で5月の最高気温1位。東京の真夏日は5月3回目となり最多タイ。



今月のひまわり画像—2015年5月

東シナ海で再発達した台風第6号



第1図 上段：5月10日08時，11日19時，12日03時（日本時間）の赤外画像。中段：5月10日08時，11日19時，12日03時のマイクロ波89 GHz画像（左からDMSP-19，DMSP-17（共に米国），GCOM-W（日本））。下段：5月11日19時，12日03時の赤外画像にレーダー降水強度を重ね合わせた画像。

第1図は2015年5月10日～12日の台風第6号の赤外画像，マイクロ波放射計89 GHz画像（以下「マイクロ波画像」）及び赤外画像にレーダーを重ね合わせた画像である。赤外画像を見ると，台風第6号は10日朝にルソン島の東で最盛期を迎えた後，11日夜になると台湾の東海上で台風の雲域の衰弱傾向が明瞭となったが，その後12日朝にかけて先島諸島を通過し，沖縄本島へ近付くにつれて台風中心の北側及び西側で濃密な雲域が拡大するなど再発達の兆候を示した。

マイクロ波画像では，ひょうやあられを多く含む領域が白く輝いて見える。各時刻の同画像を見ると，10日08時には眼を取り巻くリング状の白く輝いた領域が明瞭であったが，11日19時にはこの雲域は台風中心の

北側のみとなっていた。しかし12日03時になると再び西側及び南側に白く輝いた領域が形成された。同時刻のレーダー降水強度と比較すると，マイクロ波画像の白く輝いた領域は，レーダーの強雨域との対応が良いことがわかる。この事例のようにマイクロ波画像は，赤外画像からはわからない内部構造を見ることができ，その画像分析から台風の勢力を把握するのにも活用されているが，極軌道衛星ゆえに一日最大2回しか観測できないという欠点がある。その点，静止軌道衛星であるひまわりの衛星画像は連続して観測ができるので，両者の利点をうまく利用することにより，洋上における台風解析の精度向上を図っている。

（気象庁予報部予報課 野中信英）